

【小学校の役割】

今、小学校に入学してきた子どもたちをどのような子どもに成長させて中学校に送り出すのが望ましいのかについて、これまでの数年間を振り返りながら自分に問いかけています。

なぜ、今になってこういうことを考え始めるようになったかと言うと、中学校に進学した子どもたちの多くは、もちろん勉強を頑張り、クラブ活動などにも楽しさを見つけ積極的に参加しながら生活しているのですが、中には思うような生活ができないばかりでなく、学習面においてもその取り組みに苦しむ子がいるという現実問題があるからです。このようなことをお伝えすると、保護者の皆様には余計な不安を持たせることになると思いますが、こういう問題はむしろ私たちと保護者の皆様との共通の認識として持つておくことが必要であり、またそれは隠す必要もないことだと考えました。

私たちは中学校や高等学校に進学した子どもたちの生活の様子を全て把握しているわけではありません。基本的には卒業した子どもたちが在籍している学校の先生方がその指導に責任を持つことになるので、私たちから積極的に「くん(さん)の様子はどうですか?」と聞く機会はあまりありませんが、中高側との情報交換の中で話題に上がる卒業生は少なからずいるのです。

気になるポイントはいくつかあります。「学習についていくことができるか」「友だちとの関わりがうまくできるか」「クラブ活動を楽しんでいるか」などは、私たちが卒業生のことを思うときにいつも気にすることがあります。また、これらのどれを欠いても充実した学校生活を送っているとは言えないと考えています。

実際に、中学校に入学すると、勉強の進み方の速さに驚く子もいます。しかし、そういう驚きの気持ちがありながらも何とか頑張っていく。同時にクラブ活動への関心が高まり、しだいに自分の希望するクラブが決まるとその所属したクラブでの活動も始まります。生活面においては、中学校に進学すると「自分で考え、判断し、行動する」ことが当然のこととされてしまうことに戸惑う場合もあるようです。これらは、実は小学校でも毎日の学校生活の中で子どもたちに身につけさせたいと思っていることです。しかし、小学校に在学している間は、それができないために子ども自身が困り、戸惑う場合に、保護者そして教員がその子どもに寄り添い、支援することが多いのです。中学校に進学した途端に「自分の力で」を強く求められると、切り換えがうまくできないために、中には戸惑いを感じ、誰かに助けを求めたいという気持ちを持つ子も出てくるのではないかと思います。

このようなことから、小学校での生活がどうあるべきかを考える上で、卒業した子どもたちが中学校や高等学校でどのように生活しているかという実態を参考にすることは大切であると思います。

もちろん、小学校には小学校なりの「目指す子ども像」があり、校訓、それぞれの学年に設定した教育目標、さらにはカリキュラムをもとにした教育活動が行なわれています。また、この小学校では子どもたちが活躍できる行事もたくさん用意しています。子どもたちがそれらの活動にどのように関わっていくかが、一人ひとりの成長に大きく影響しています。

中学校に進学した子どもたちが、困難に立ち向かい、そして打ち勝ち、逞しく生活していくことができるようにするために、私たちは小学校におけるあらゆる活動において、子どもたちがその取り組みで得た経験を、その後の生活に活かしていくことができるようにしていかなければならないと強く感じています。

【挨拶】

横断歩道で黄色い旗を持って子どもたちを送ることがありますが、そんなときに、こちらが「さようなら」と言っても、友だちとの会話に夢中になって私の声が届かないのか、全く反応がないことがときどきあります。そんなときは正直なところ、悲しくなります。そして、「挨拶もできない子にしまったのか」という思いが過ぎります。

次の日、「今日こそは・・・」と思って、こちらから「さようなら」と言うと、「さようなら」としっかりと挨拶が返ってきます。そんなとき、嬉しい気持ちになります。たった一度の挨拶でこのように気持ちの浮き沈みがある自分はどこかおかしいのではないかなと思うこともあります。

そんなことが続いたある日、私はある子どもに、「今日はあなたとちゃんと挨拶を交わすことができるとてもうれしいです」と正直な気持ちを伝えました。その後彼は私の前を無反応なままで通り過ぎることはなくなりました。

挨拶の大切さはこの小学校に入学したときから伝え続けてきており、多くの子どもたちにしっかりと受け止められているものではないかと思っているのですが、こちらの気持ちの緩みがどこかにあったのかもしれない。また、子どもが教師に挨拶をするのは当たり前という驕った気持ちがあるとすると、子どもはそういう教師の気持ちを見抜くのもかもしれません。また一つ子どもに教えられたような気がしました。